



埼玉森林インストラクター会

Forest Instructor Saitama

会報 No. 13 (2020年1月)

巨木の話

神社やお寺に行くと大きな木を見ることがあると思います。神社の大きな木は御神木と呼ばれることが多く、天から神様が降りて来る、あるいは神様が宿る木とされています。神社に限らず、昔から大木は数十年、数百年風雪に耐え、災害や伐採を逃れて生きてきた、奇跡的な生命という神秘的な存在なのか、神や仏と結び付けられることが多いようです。

このような大木について、環境省は1988年と2000年に全国規模の調査を行っています。対象は、地上130cmの位置で幹周りが300cm以上の樹木です。環境省はこれらの樹木を巨木と命名しています。ただし、育ち難い樹種については、基準を緩めて次のようになっています。

(1) 幹周り100cm以上を巨木とする樹種

ヤブニッケイ、フサザクラ、ネムノキ等

(2) 幹周り200cm以上を巨木とする樹種

ゴヨウマツ、シラカバ、ユズリハ等

(詳しくは環境省生物多様性センターHPまで)

調査の結果、全国で約64,000本の巨木が見つっています。全国最大は鹿児島県のクスノキで幹周り24.22m、埼玉県最大は越生町のクスノキの幹周り15.0mで、「上谷の大クス」

上谷の大クス



と呼ばれています。なお、樹種別の全国ベストテンに埼玉県で入っているのは「与野の大カヤ(幹周り7.6m)」と呼ばれているカヤのみで全国第7位です。

与野の大カヤ



私はさいたま市岩槻区に住んでいますので、まず地元には巨木が何本くらいあるのかと思い、環境省のデータベースで調べると25本でし

埼玉森林インストラクター会副会長 桂 幸一

た。私の感覚では「そんなに少ないわけがない」と思い、自分で調べてみようとして4年前の冬に巻尺とカメラを持って、2ヶ月間かけて自転車と徒歩で岩槻区をくまなく調べた結果、約80本の巨木が見つかりました。環境省は各地の市町村に巨木調査を依頼したようです。市町村の担当者も樹木に精通した人ばかりではないので、天然記念物や保存指定樹木等からピックアップしたと思います。その結果少数の巨木しか見つからなかったのでしょうか。

このような調査は、全国組織で樹木に精通している森林インストラクターが適任だと思います。2000年に巨木調査をしてから20年が経過しています。成長の早い樹種では、幹周りが年間5~8cmも増加することもあり、20年では1~1.5mにもなります。そろそろ再調査が必要と考えます。再調査を環境省とタイアップしてできないでしょうか。費用も調査を会員の地元で割り振れば、交通費程度で済むと思います。森林インストラクター会も、支部同志の繋がりが少なくなっている現状ですが、この事業を行えば巨木と言うキーワードで話が弾むことと思います。全国会の理事の方々、この事業の環境省に対する働きかけをお願いできないでしょうか。

最近環境の変化もあり、巨木が生存するのも難しい時代になっています。岩槻区では環境省調査の25本の巨木のうち、数本は雷による倒木や人為的な伐採で失われていましたし、私が調べた巨木も4年前から現在までに、数本が管理が大変ということで伐採されてしまいました。巨木になるには何十年、何百年の時間を要します。現在世界各地で、人類の未来に残そうと「世界遺産」や「日本遺産」への登録活動が行われ、毎年何件もの施設や地域等が指定されています。巨木も未来に残していくべき身近な遺産として扱う必要があるのではないかと考えています。

活動報告

- 森林インストラクターの森（ときがわ町）
 - 1/13 植栽地選定 3/3 植樹準備
 - 3/5 萩ヶ丘小学校植樹体験 3/10 間伐
 - 3/17 キノコの駒打ち 5/12 林内整理
 - 8/11 下刈り 9/8 下刈り 11/10 下刈り
 - 12/8 作業道作設
- 宝登山四季の丘
 - 4/7 下刈り 6/23 下刈り
- 講師派遣
 - 県民の森自然観察会 秩父農林公社主催
 - (5/3 9/28)

- 航空公園ガイドツアー 航空公園管理事務所
(1月～12月 9回)
- 里山ガイドウォーク NHK文化センター主催
(1月～12月 22回)
- みどりの案内人養成講座 埼玉県みどり自然課
主催 (11/22、12/3)
- 現地研修会
 - 3/10 間伐研修 4/28 山菜研修会 6/5 里山
研修 (トラスト2号地) 8/3 里山研修 (ト
ラスト14号地) 12/19 里山研修 (茨城県自然
博物館)

コラム

萩ヶ丘小学校 植樹体験

前日まで雨が続いていましたが、久しぶりの晴天でさわやかな青空の下で毎年恒例となっている萩ヶ丘小学校4年生による植樹体験を行いました。参加者は生徒9名、先生2名、会員他9名の20名でした。10時に参加者全員が集まり、当会の黛会長が「本日皆さんが植樹するコナラの苗によって大切な森を作っていきます。」と挨拶をして始まりました。その後、先生も加わって2人ずつ5組に分かれ、会員の指導の下で植樹作業を始めました。雨上がりで足元が悪かったにも関わらず順調に進み、当初10本の予定でしたが、予備の3本も含めて13本全てを、誰一人ケガをすることもなく無事に植



樹することが出来ました。植樹の後、引き続きウッドクラフト作りをしました。あらかじめ用意していた丸いスライス木片に、カラーマジックを使って思い思いに絵や文字を書いてペンダントを作り各自持ち帰りました。又、トチノキの冬芽のネバナを体験することもでき、ウバユリの種が風に舞う様子も見ることができて、多くの体験をした1日でした。

(辰尾俊明)

埼玉県民の森・春の観察会

【当会担当講師：飯塚 明/辰尾俊明】

日 時：2019年5月3日（金・祝日）

参加者：一般参加者20名（他、関係者4名）

県民の森「春の観察会」は、元号が令和に変わった直後の令和元年5月3日に開催されました。朝から青空の清々しいお天気に恵まれ、連休中と言うこともあって家族での参加が目立ちました。まずヤマザクラ、トチノキなどの観察から始まりました。トチノキの葉は秩父地



方では朴葉に変わりチマキみたいな「ツトッコ」と言う保存食を作る材料だそうです。続いて、リョウブは漢字で「令法」、食料不足の時にコメに混ぜて食べよとのお達しを意味する漢字等々、飯塚講師の興味深い話が続ききました。昼食休みにはタンポポの茎を使った笛作りをしました。微妙な感じが難しく、皆さん真剣に取り組んでいましたが上手に音を出せた人は少なかったです。更に、水溜まりに大量のヒキガエルの卵があったので、飯塚講師が手ですくい上げて希望者に触ってもらいました。終盤には非常に貴重な希少品種のオトメニオイタチツボスミレを観ることができました。

オトメニオイタチツボスミレ



郷土の話を織り交ぜたり、作ったり、触ったりと多彩な観察会になったと思います。
(辰尾俊明)

県民の森・秋の自然観察会

【当会担当講師：小林慎吾／浅井修三】

日 時：2019年9月28日（土）10：00～

場 所：県民の森

参加者：11名

コース：管理事務所～展示林～水辺の広場～デイキャンプ場（昼食）～管理事務所

毎年恒例となっている春と秋の「県民の森自然観察会」ですが、県民の森での講師は、浅井さん、小林ともに初めてでした。参加者と楽しく歩けるよう事前準備をしていましたが、直近で参加者ゼロとのこと。拍子抜けでしたが、高杉さんが会の方々にお声掛けいただき、なんと森林インストラクター5名が参加することに！



これはこれで緊張します。それでも最終的に一般の方6名が申し込まれ、講師等と合わせて合計13名となり賑やかな観察会になりました。

春に比べて秋は、花の種類が少ないようですが、当日は、46種の花を観察することができ、その他、樹木の実や特徴的な葉の話で大いに盛り上がり、充実した1日となりました。

(小林慎吾)

パナソニック植樹イベント

【当会担当講師：高杉 茂／桂 幸一／河野 満／辰尾 俊明】

日本の一流企業ではCSR（社会的責任）活動として環境対策活動が行われていて、パナソニックも森林保護活動として植樹を和歌山県「田辺龍神・ながきの森」で9年前から実施しています。埼玉県「毛呂山・ながきの森」はそれに続いて始められたもので、今年5月11日にパナソニックの社員とその家族140名の参加で実施されました。植樹活動だけの3グループと植樹活動+森の観察会に参加する3グループに分かれて、植樹活動は埼玉県農林公社の職員が担当し、当会は森の観察会の案内を担当しました。その中の若い人主体の1グループは高杉さんが引率し、森の観察をしながら宿谷の滝まで急ぎ足で往復しました。シダの話が聞けて、滝が見られて良かったと好評でした。他の親子連れ主体の2グループは、「ながきの森」周辺の森の観察を桂さんが引率し、その後用意していた青竹の筒を使って、桂さ

植樹参加者



宿谷の滝まで



竹細工説明



竹の輪とおし



また。その中の若い人主体の1グループは高杉さんが引率し、森の観察をしながら宿谷の滝まで急ぎ足で往復しました。シダの話が聞けて、滝が見られて良かったと好評でした。他の親子連れ主体の2グループは、「ながきの森」周辺の森の観察を桂さんが引率し、その後用意していた青竹の筒を使って、桂さ

ん、河野さん、辰尾が竹の輪通し（ケン玉のような遊び方）を作る指導をしました。子供がマジックで印を付け、お父さんがノコやナタで印に沿って切り取る連携作業が上手に出来、お父さんの株がグンと上がりました。全体的にとっても充実したイベントだったと感じました。

(辰尾俊明)

「航空記念公園いきものガイドウォーク」について



所沢航空記念公園管理事務所から依頼を受け、当会の会員 10 名が定例観察会のガイドを担当している。7月、

8月を除く毎月第4土曜日（12月は第3土曜日）の10時から1時間ほど、毎回2人一組で公園内を案内している。コースやテーマはガイド担当者が1週間ほど前に下見を行い、決定する。参加者は、平均7、8名で60代以上の所沢市民がほとんどで、そのうち4割程度が常連であり、管理事務所HPでのPRも必要ではないかと思う。参加者の多くは自然観察の初心者だが、好奇心が強く、いろいろな質問が出て刺激になる。一方で、一歩間違えると「初心者相手のごまかし」が通用すると言えなくもなく、一定のレベルを保つべく担当者間の意見交換も必要ではないかと考えている。

(佐藤善治)

仁志の森活動 キノコの駒打ち

2019年3月17日、仁志の森（都幾川）においてキノコの駒打ちを行いました。

キノコ栽培の原木（ほだ木）は、広葉樹が適しており、一般的にはコナラやクヌギなどが利用されます。同じ種類の原木でも表皮の肌質（ゴツゴツ肌、ツルツル肌等）によって発生するキノコの

大きさや数が異なると言われます。

今回ほだ木として選んだのは、仁志の森で育った直径10～15cmのヒノキ、トチノキ、カツラで、これらを伐採し、1.5m長さにカットしたものを約50本準備しました。

キノコ菌は3種類で、ナメコ500個、シイタケ400個、エノキ100個の種駒を用意しました。種駒とはキノコ菌を蔓延させた直径9mm程度の木片です。

当日まずは、仁志の森内に保管しておいたほだ木全50本を駒打ち作業を行なう場所に集めました。

次にほだ木の端面から4cmの位置を起点に、15cm間隔で、内径φ8.5mm、深さ3cmの穴を電気ドリル、または駒打ち専用ハンマーで開けていきます。作業性は電気ドリルの方が良好でした。

穴あけ後、ゴムハンマーで種駒を打ち込んでいきます。ナメコ（500個）はヒノキに、シイタケとエノキ（計

500個）は、トチノキとカツラに埋め込みました。

駒打ち



こうして種駒を埋め込んだほだ木は、林内の日陰エリア（ヒノキの林床）に並べて保管しました。ほだ木は乾燥させない管理をしていく必要があります。

ほだ木の種類、形状、穴あけ深さ、保管状態、天候等の様々な条件がキノコの発生に影響すると考えます

林床への保管



が、予想では2年後の秋の発生であり、今後よく観察していきたいです。

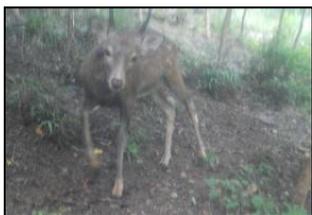
自分自身、キノコの駒打ちは今回が初めてであり大変貴重な経験となりました。

(本田和彦)

トレイル（センサー）カメラによる動物調査

9月7日よりときがわ町仁志の森にセンサーカメラを設置し、林内に生息している動物の調査を開始しました。11月10日までの約2ヶ月間で、出現回数が多い順にシカ、イノシシ、アナグマ、ネズミ、テン、ヤマドリ、ノウサギ、タヌキ、ハクビシン、アライグマの10種（ほ乳類9種、鳥類1種）が確認されました。このほか、林内にあったクルミの食痕から、リスが生息していると思われる。ほ乳類のほとんどは夜行性のため昼間の撮影数は少なく、多くは夜間に確認されました。動物が活発に動く時を確認できないかと思い、気温、天気、月齢などを整理してみましたが、撮影期間が短いことから、今のところ際だつて出現回数に変化はありません。ただ、満月の夜にノウサギが撮影されたので、こちらが飛び跳ねたくなる思いでした。しかし、喜んでばかりいられないのが外来種（ハクビシン、アライグマ）の存在です。特にアライグマは凶暴で食欲旺盛なため、生息域を同じにするテン、捕食対象となるサンショウウオへの影響が少し気になります。冬になると動物の活動も鈍るとは思いますが、12月より沢沿いにカメラを増設したので、新たな動物の

カメラに興味津津な若い雄シカ



カメラに興味津津な若い雄シカ

食痕：穴を開けるネズミ、半分に割るリス



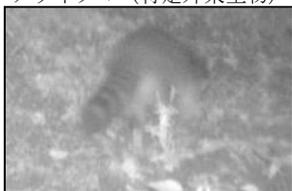
満月のノウサギ



ホンドテン（夏毛）



アライグマ（特定外来生物）



確認されています。このほか、林内にあったクルミの食痕から、リスが生息していると思われる。ほ乳類のほとんどは夜行性のため昼間の撮影数は少なく、多くは夜間に確認されました。動物が活発に動く時を確認できないかと思い、気温、天気、月齢などを整理してみましたが、撮影期間が短いことから、今のところ際だつて出現回数に変化はありません。ただ、満月の夜にノウサギが撮影されたので、こちらが飛び跳ねたくなる思いでした。しかし、喜んでばかりいられないのが外来種（ハクビシン、アライグマ）の存在です。特にアライグマは凶暴で食欲旺盛なため、生息域を同じにするテン、捕食対象となるサンショウウオへの影響が少し気になります。冬になると動物の活動も鈍るとは思いますが、12月より沢沿いにカメラを増設したので、新たな動物の

確認を期待しています。

(服部保典)

会員の活動

ひこべえの森を守る

「下小笠原遺跡ひこべえの森」は白岡市内にある約1万平米の平地林です。終戦直後の航空写真を見ると畑でした。74年を経た今日、主に実生から育ったコナラ、シデ、などで構成された平地林になりました。積極的に管理利用されなかったこの森を市民が利用でき

森の全景



るよう、2000年頃から、有志者が立ち上げた「白岡緑と土の会」が土地所有者の理解を得て、整備保全活動を始めました。月2回の定期活動に加えて、森を利用した様々なイベントを開催し、森とその利用について市民に紹介すると共に、公有地化の運動を進めました。その活動が認められ、埼玉県が買い上げ、当会は



2012年に市と県と保全管理協定を締結致しました。今年最終的なイベント、「第10回ひこべえの冬のつどい」が市等との共催で、市内の中高校生や一般市民約70名が参加して落枝や落葉集めを行いました。

お昼には落ち葉で焼いた焼き芋や豚汁やおにぎりで楽しい時間を過ごしました。環境問題が大きな問題になっている今日、この森の経験が参

加者の生徒達が将来環境意識の強い人に育って
くれる事を会員は願っています。

(白岡緑と土の会代表・久保木孝夫)

ジャイアントセコイアと樹上生態系調査

私はジャイアントセコイア (Sequoiadendron giganteum) の森の保護活動を行っています。この活動はアーボリスト®トレーニング研究所と中部大学のジョン・ギヤスライト博士によるプロジェクトで、セコイアの保護と樹上生態系調査 (キャノピーリサーチ) になります。私は 2015、2017、2018、2019 年に渡り参加しています。セコイアの保護とは、セコイア周辺の繁茂した樹木の間伐作業です。セコイアは本来、山火事が発生する場所で生存し樹齢 1,000 年以上からなる群落です。しかし、近年は山火事の消火活動のため、周辺樹木が存続しセコイアの成長に影響を与えています。間伐作業は地上 (根系) への衝撃をなるべく避けるため、樹護士アーボリスト®による断幹作業で行います。樹上生態系調査とは、セコイアの樹上 (樹冠) で生息する生物調査です。可能な限り頂点付近まで登り、高さを計測して地上から 5m ピッチでサンプリングします。本年は計測高 75m のセコイアで調査を行いました。この調査結果は中部大学が管理しています。安全で樹木に優しいツリークラミング®を使って、樹上生態系調査の活動を国内でも普及したいと思っています。



中部大学のジョン・ギヤスライト博士によるプロジェクトで、セコイアの保護と樹上生態系調査 (キャノピーリサーチ) になります。私は 2015、2017、2018、2019 年に渡り参加しています。セコイアの保護とは、セコイア周辺の繁茂した樹木の間伐作業です。セコイアは本来、山火事が発生する場所で生存し樹齢 1,000 年以上からなる群落です。しかし、近年は山火事の消火活動のため、周辺樹木が存続しセコイアの成長に影響を与えています。間伐作業は地上 (根系) への衝撃をなるべく避けるため、樹護士アーボリスト®による断幹作業で行います。樹上生態系調査とは、セコイアの樹上 (樹冠) で生息する生物調査です。可能な限り頂点付近まで登り、高さを計測して地上から 5m ピッチでサンプリングします。本年は計測高 75m のセコイアで調査を行いました。この調査結果は中部大学が管理しています。安全で樹木に優しいツリークラミング®を使って、樹上生態系調査の活動を国内でも普及したいと思っています。

私は 2015、2017、2018、2019 年に渡り参加しています。セコイアの保護とは、セコイア周辺の繁茂した樹木の間伐作業です。セコイアは本来、山火事が発生する場所で生存し樹齢 1,000 年以上からなる群落です。しかし、近年は山火事の消火活動のため、周辺樹木が存続しセコイアの成長に影響を与えています。間伐作業は地上 (根系) への衝撃をなるべく避けるため、樹護士アーボリスト®による断幹作業で行います。樹上生態系調査とは、セコイアの樹上 (樹冠) で生息する生物調査です。可能な限り頂点付近まで登り、高さを計測して地上から 5m ピッチでサンプリングします。本年は計測高 75m のセコイアで調査を行いました。この調査結果は中部大学が管理しています。安全で樹木に優しいツリークラミング®を使って、樹上生態系調査の活動を国内でも普及したいと思っています。



この調査結果は中部大学が管理しています。安全で樹木に優しいツリークラミング®を使って、樹上生態系調査の活動を国内でも普及したいと思っています。

(市川幸典)

研修報告

山菜研修

2019 年 4 月 28 日 (日)

埼玉森林インストラクター会に初参加で、今年で 7 回目になる山菜研修会に参加させていただきました。この日は他にも行きたいイベントがあったのですが、山菜の天ぷらとそばと聞いて食欲には勝てずこちらを選びました。



「森林インストラクターの森」に入って、いきなりじゃあ 30 分くらいで山菜を摘んできてと言われ、どうしていいか分からなかったのですが、とりあえずベテランそうな方の後について同じようなものを採取していききました。採集の後は、皆で集まって同定です。各自採ってきた山菜 (雑草?) を同じ種類に仕分けし、紙皿の上においていきます。50 種類以上の山菜を紹介され、山にはこんなに多くの植物があるのだなと実感させられました。同定って 10 種類くらい紹介するのかなと思っていたのですが、こんなにたくさんの種類を説明できる高杉さんの知識に驚きました。同定の説明の裏ではベテ

ゼンマイ



アオカラムシ



ヤマツツジ



ランの会員の皆さんが手際よく、山菜のお浸しや天ぷら、そばを調理してくださり、これも会員の手作りのウッドデッキの上で新緑を愛でながら天ぷらそばをいただきました。いやあ美味しかったです。

(三橋 敏)

ラヨウを見ました。こんなに大きなタラヨウはこの辺では珍しいそうです。

(西田宗史)

里山研修 (トラスト 2 号地)

【当会担当講師：佐藤善治】



さいたま緑のトラスト協会所属、佐藤善治様の案内の元、狭山丘陵・トラスト 2 号地を散策しました。最初にトラスト

運動の事や狭山丘陵

がどんどころかを説明頂き、クアオルト〈健康ウォーキング〉のコースにもなっているところを歩きました。今の時期はあまり見どころの植物が

無い時期だそう

タラヨウ



ですが、道すがらアカゲラやキビタキのさえずりを聞きながら、オカトラノオ、ニワトコ、オオキンケイギク、ヒルサキツキミソウ、ハルシャギク、サイハイラン (花は終わっていました)、ノブキ、ヤマホトトギス、カンアオイ、トキワツユクサ、コウヤボウキ、ネズミモチ、ムラサキシキブ、ゴンズイ、マグワなどを観察しました。途中、トトロの森 1 号地や湧き水の源泉、最後の一本になったモミの木の説明を受け、堀口天満天神を見学し地域の文化にも触れ、山口貯水池 (狭山湖) を見ながら昼食を取りました。山口貯水池は所沢市にあるのに東京都水道局の所有なんですね。最後に山口観音の脇に生えているタ

里山研修 (トラスト 14 号地)

【当会担当講師：原 芳彦】

8 月 4 日、参加者 11 名で三芳町での研修を行いました。町の概要説明をうけたあと、トラスト第 14 号地に認定された雑木林を見学しました。雑木林は元々、落ち葉から堆肥をつくる循環型農業の

ための農用林だったようですが、面積の減少や整備・保全不足による荒廃、ごみの不法投棄などの問題を抱えていたそうです。

緑のトラスト保全第 14 号地



みよしグリーンサポート隊によって整備された雑木林の中は遊歩道があり歩きやすく、木々をわたる風がさわやかでした。一般の方や企業のボランティア活動の場や、小学生の環境教育の場としても活用されているとのことでした。

その後は町立歴史民俗資料館で三富新田の成小学校屋上からみた地割

り立ちなどについて学び、小学校の屋上や早川農園にうかがい、実際に地割などを目でみて確認しました。最後に多福寺



を見学しました。

暑い日でしたが、運営の方々のご尽力のおかげでスムーズに研修ができました。

(藤木有美)

「あんなところ、こんなところ。」 第9回 『丸神の滝 (まるがみのたき)』

丸神の滝は埼玉県の西部、秩父郡小鹿野町にあり、埼玉県では唯一日本の滝百選に選ばれた滝である。「まるがみ」の名の起こりは不明だが、林述斎が文化七年(1810)に編纂した新編武蔵風土記稿にも図入りで紹介されている。小森川右岸の滝越沢中流に掛かり、徒歩 25 分程で全容を見ることが出来る。全長は約 73m、3 段に分かれ、1 段目(最上段)は垂直に落ちる 12m、2 段目も垂直に落ちる 14m、3 段目は斜度 60 度で流れるように落ちる 47m である。春の新緑、秋の紅葉、厳冬期の氷瀑と四季を通じて彩りを見せ、目を楽しませてくれる。

滝の周辺はサワグルミ、トチノキ、シオジ、ミズナラなど落葉広葉樹林に囲まれ、カモシカ、ヤマネ、ヤマドリ、カワガラスなど哺乳類・鳥類も豊富に棲息している。昭和 50 年 3 月 28 日に埼玉県自然環境保全地域の第 1 号に指定された。総て

民有地で構成され、その面積は 293.00ha である。現在では駐車場やトイレも整備され、年間を通じて滝見客が訪れる。遊歩道は 1 周約 60 分の周遊コースとなっており、西側入り口には歌人、前田夕暮の歌碑が建てられている。

(山中 正彦)

2019 年 7 月 24 日撮影

2010 年 11 月 12 日撮影



事務局からのお知らせ

- 今年度 (2020 年 3 月まで) の日程
 - 1 月 12 日 地拵え (ときがわ)
 - 2 月 9 日 里山研修 (ときがわ)
 - 3 月 1 日 植樹体験準備 (ときがわ)
 - 3 月上旬 萩ヶ丘小学校植樹体験 (ときがわ)
 - 3 月 8 日 キノコの駒打ち (ときがわ)
- メーリングリストに登録を！

会からの迅速な情報伝達のために e-mail を利用されている方で当会のメーリングリストに未加入の方は是非ご加入ください。
- 傷害保険について

当会主催の活動での怪我等に対処するため傷害保険に加入しています。内容は、1 名につき死亡 1000 万円、入院 1 日 5000 円、通院 1 日 3000 円です。
- 年会費の納入について

2020 年度の会費 3000 円は 2020 年 3 月 31 日までに下記口座にご入金願います。

なお、2019 年度会費が未納の方は、至急、同口座に入金してください。

(振込先)

埼玉りそな銀行小手指支店

普通 4 1 4 7 8 2 6

埼玉森林インストラクター会

*編*集*後*記*

様々な分野の興味深い記事や写真を取りまとめる作業はとても楽しく、また、励みとなりました。(豊福 匠)

埼玉森林インストラクター会報 No. 13

2020 年 1 月 15 日発行

発行：埼玉森林インストラクター会

URL: <http://saitamanomori.net>

連絡先：〒359-1147 所沢市小手指元町 2-1-12

事務局・高杉